糖代謝	空腹時血糖		１２６mg／dl以上は糖尿病が疑われる。ＨｂＡ１ｃなどと合わせて糖尿病の診断を行う。
	ブドウ糖負荷試験（ＧＴＴ）		空腹時の血糖値を調べた後、７５gのブドウ糖水溶液を飲み、その後２時間で血糖値がどの程度変化したかを調べるもので、糖尿病の診断に用いられる血液検査。
	ヘモグロビンＡ１Ｃ（ＮＧＳＰ値）		過去１～２か月の血糖値を反映する。６.５％以上は糖尿病が疑われる。
痛風	尿酸		高尿酸血症では尿酸が針状の結晶となり関節や腎臓にたまり、その結果、痛風・尿路結石・腎障害を引き起こす。
尿検査	尿定性	糖	血糖値が高くなると陽性となり、糖尿病の血液検査が必要。
		蛋白	陽性の場合は、腎疾患などが疑われる。
		潜血	陽性の場合は、腎疾患・尿路結石などが疑われる。
	尿沈渣		尿を遠心分離にかけ沈殿物を調べることで、腎臓・尿路系の病気や部位を推測できる。
腎機能検査	尿素窒素(BUN)・クレアチニン(血清)		腎機能の低下や脱水などで上昇する。
	ｅＧＦＲ(推算糸球体濾過量)		血清クレアチニンおよび年齢、性別から計算される。腎臓にどれくらい老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示す。腎臓の働きが悪いほど値は低くなる。
便	潜血		口から肛門までの消化管出血の有無を調べる。大腸がんの早期発見が目的。
その他の検査（オプション検査）●は血液検査	●腫瘍マーカー	ＰＳＡ（前立腺特異抗原）	前立腺がん
		ＣＥＡ（がん関連抗原）	大腸がん、膵がん、胆道系がん、肺腺がん、乳がんなど
		ＡＦＰ（α-ﾌｪﾄﾌﾟﾛﾃｲﾝ）	肝細胞がん
		ＣＡ１９-９	膵がん、胆道系がん、大腸がん、胃がんなど
		ＣＹＦＲＡ（シフラ）	肺がん（特に扁平上皮がん）
		ＣＡ１２５	卵巣がん
	※腫瘍マーカー検査は、初期がんを感度よく見つける検査ではありません。また良性の病気でも高値となることがあり、異常値の場合でも必ずしも病気が考えられるわけではありません。		
	●甲状腺	ＴＳＨ(甲状腺刺激ホルモン)、ＦＴ４(甲状腺ホルモン:サイロキシン)の２種類を血液検査により測定する。甲状腺機能のスクリーニング検査。	
	●ピロリ菌検査	ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ･ﾋﾟﾛﾘ菌に感染しているかどうかを血液中の抗体の有無により診断する。	
	●ペプシノゲン検査	血液で見る胃がんのスクリーニング検査。陽性であれば慢性胃炎が進行していると考えられ、胃がん発症リスクが高くなるため、胃カメラによるがん検診や精密検査が必要となる。	
	●ＡＢＣ検査（ピロリ菌+ペプシノゲン検査）	ピロリ菌感染の有無と胃粘膜の萎縮度をみるペプシンノゲン検査から、胃がんの発生リスクを調べる。 ※リスク層別化検査ですので、単独のピロリ菌検査よりも陽性の判定が厳しくなっています。	
	●脳梗塞リスクマーカー	自覚症状のない小さな脳梗塞である“かくれ脳梗塞”または“無症候性脳梗塞”の存在を血液で判断する検査。陽性の場合は、脳の精密検査や動脈硬化を悪化させない健康管理が必要となる。	
	●ＮＴ-proＢＮＰ検査	「心臓の負担」の程度をみる検査。心臓への負担が大きいほど高値となる。	
	●アレルギー検査 viewアレルギー39	３９種類のアレルギーの原因を調べる検査。	
	喀痰細胞診検査	主に肺扁平上皮がんに対するスクリーニング検査。	
	骨蜜度検査	骨粗鬆の診断に有用となる検査。	
	視野検査（緑内障スクリーニング検査）	視野（見える範囲）に欠損がないかを調べる検査。特に緑内障の約７０％を占める正常眼圧緑内障のスクリーニングに有用である。	
	頸動脈超音波(エコー)検査	超音波（エコー）で動脈を直接観察し、動脈硬化の程度・血管の詰まり具合や血管年齢をみる検査。	
	血圧脈波検査(CAVI検査)	血圧と脈波を測定し、動脈硬化の程度・血管の詰まり具合や血管年齢をみる検査。	
	子宮がん検査	子宮頚がんのスクリーニング検査。	
	乳がん検査	乳房の触診に加え、マンモグラフィーまたは乳腺エコーを行う。	